

第3回 川越町総合計画審議会 書面会議

番号	対象箇所	質疑等の内容	回答	備考
1	資料② 第7次総合計画の体系(案)	基本方針1 「 <u>安全で心地よい暮らし</u> ができるまちづくり」とあるが、「 <u>安全で快適な暮らし</u> ができるまちづくり」ではないか。	ご指摘のとおりです。正しくは、「安全で快適な暮らしができるまちづくり」です。訂正させていただきます。	
2	資料② 第6次と第7次の施策体系	<p>第6次総合計画の施策「防災・減災」が、第7次総合計画の施策では「防災・消防・救急」に統合されている。</p> <p>(1) 第6次総合計画の項目「水害対策、地震・津波対策」が、第7次総合計画の項目では、「防災対策」と具体性のない抽象的言葉に代わっているが不適當ではないか。</p> <p>(2) 資料①のP7(住民意識調査結果)の重点改善項目にあるように、「津波対策」、「水害対策」、「地震対策」が最上位であると考えているがいかがか。</p>	<p>第7次総合計画では、「防災・消防・救急」を、町の最重要課題と認識し、基本方針・基本施策の最上位に位置づけています。また、水害、地震、津波、火災などの町民の生命と財産に関わる項目を一つの基本施策に統合し、総合的に災害対策を強化していくことを考えています。</p> <p>そのため、資料②では、第6次の「水害対策、地震・津波対策、防災体制」から、第7次では「防災対策、防災体制、住宅耐震化」というように記載しておりますが、基本計画での防災対策の施策としては、「水害対策、地震対策、津波対策など」とを分けながら、具体的な施策・事業等を基本計画の中で検討していく予定にしております。</p> <p>重複しますが、参考資料①にもありますように、「防災、消防、救急」分野の施策体系を</p> <p>(第6次) → (第7次) 基本方針2 → 基本方針1 基本施策4・6 → 基本施策1</p> <p>としています。第7次計画では、生命・財産などに関わる『安全・安心』に関わる部分を第一とし、基本方針・基本施策ともに、1番目の項目としています。</p> <p>・(1)のご意見について</p> <p>「水害対策、地震・津波対策」については、参考資料①のとおり、第6次に</p>	参考資料①

			<p>おいては、「施策の内容」の部分であり、第7次も同様の取り扱いを予定していることから、変更はありません。</p> <p>「水害対策、地震・津波対策」につきましては、これまでも最重要施策として取り組んでおり、ご意見のとおり、第7次計画においても取り組むべき課題であると考えております。</p> <p>・(2)のご意見について</p> <p>上記のとおり、『安全・安心』に関わる部分を第7次では、基本方針・基本施策ともに1番目の項目とし、重要度・優先度をお示ししております。</p> <p>住民意識調査の結果にも表れておりますが、「津波対策」、「水害対策」、「地震対策」は、「安全・安心」の基礎であり、今後も、様々な対策、取り組みが必要であると考えております。</p> <p>・その他</p> <p>参考資料①のとおり、第6次「④防災・減災、⑥消防・救急」→第7次「①防災・消防・救急」としております。統合した理由の一つとして、“消防団の役割”があります。</p> <p>当町は、四日市市へ常備消防委託（消防、救急業務を四日市市へ委託）を行っております。その一方で、“消防団の役割”は、消防（火災）活動にとどまらず、地域防災活動の中核となることが求められております。そういったことから、「防災」の分野に“消防団の活動”を加えるとともに、日常の『安全・安心』でもある「消防・救急」を追加し、</p> <p>「基本施策1 防災・消防・救急」として、総合的に取り組む方針としております。</p>	
--	--	--	---	--

3	資料① P 15 まちの将来像	<p>キャッチフレーズが薄っぺらく、単純化しすぎである。もっと重みのある戦略的なフレーズを。 (例) コンパクトな キラリと輝くまち かわごえ</p>	<p>将来像・キャッチフレーズの決定の経過ですが、庁内において幅広く募集を行い、26案の提案がありました。その26案について、提案理由(将来像・キャッチフレーズに込めた思い、理由など)を含め、「庁内検討会議」、「総合計画策定会議」にて、</p> <p>“つながる笑顔 ず〜〜〜っと暮らしたい町 かわごえ”</p> <p>と決定しました。26案の中には、ご提案いただいたキャッチフレーズに近い案もありました。</p> <p>本町は、生活の利便性や充実した子育て施策等から20歳代の若い世代の転入が多いことが特徴となっています。しかし、30歳代になると転出超過となっているため、転入した人がいつまでも暮らしたくなるまちにすることが重要な課題と考えています。</p> <p>また、行政区域が狭く、現状の都市構造を変えるような開発は現実的ではないことから、現在の町民の暮らしを守り、良くすることが最も重要なテーマと考えています。</p> <p>そこで、子どもから高齢者の方まで、すべての町民が暮らしの魅力を感じるまちをめざすことを、わかりやすく、シンプルに伝えることができるキャッチフレーズとして選定しました。</p>	
4	資料① P 16 将来人口	<p>将来人口は、推計人口16,300人で十分である。少子化の中で、あまり過大に推計しない方がよい。達成できない時に、川越町がこの10年間、成長していなかったイメージが町民の中で出てくる可能性がある。</p> <p>目標は固く見積もること。推計人口も少し過大とみている。</p>	<p>第2回審議会においても、「慎重に検討する必要がある」とのご意見を頂戴しており、町としましても、将来人口は、今後の方針を決定する際の一つの基準となるものですので、重要な項目であると考えております。</p> <p>10年後の16,315人という人数は、住民基本台帳人口から推計したものですので、様々な要因により、増加する、又は減少する可能性があります。</p> <p>本町としては、今後、学校教育の充実等による子育て世代の転出の抑制、地域に対する愛着を育むことによる若い人の定住の促進、交通の利便性を活かして未利用地や空き家の有効活用の促進などの施策を進めていきたいと考えています。</p> <p>また、緊急時に対応するために、多少余裕をもって社会資本を整える必要が</p>	

			<p>あると考えています。</p> <p>以上のような方針を踏まえて、2030年の人口の目標として16,500人を設定しました。</p>	
5	資料①P18 まちづくりの目標	<p>朝明川河口にある海岸を生かした「自然環境」を川越町の唯一の「宝」であるからもっと前面に売り出すべき。</p> <p>どこの自治体でもあるようなまちづくりの目標ではだめではないか。</p>	<p>高松海岸は、北勢地域に唯一干潟が残る自然海岸であり、都市化が進む当町においても、貴重な町の財産として、将来にわたり守り、残していかなければならない自然環境であります。</p> <p>その一方で、ご意見のとおり、町の宝、財産として、高松海岸を有効活用していくことも必要であります。今後の活用にあつては、町民の皆様をはじめ、自然を守る見地から、多くの方々からご意見を伺い、時間をかけて検討しなければならない事項であります。</p> <p>現時点で、具体的な活用についてお示しすることは難しいとは思いますが、審議会委員の皆様からもご意見を伺いながら、基本計画の検討を行いたいと考えております。</p>	
6	資料①P11 川越町の主要課題	<p>主要課題の捉え方が内向きで、周辺自治体との連携等により外向きに打って出る積極的な施策の柱がみられない。</p> <p>少子高齢化がますます進行する中で、単独ではなかなか生き残れないのではないか。</p>	<p>当町は、子育てしやすい町という評価をいただいております、若い人の転入が多いこと、広域的な交通条件に恵まれていることが本町の強みであり、この強みを伸ばすことも主要課題としています。</p> <p>周辺自治体との連携については、現在も「ごみ処理」や「し尿処理」など広域で行っている事業があります。また、「防災分野」におきましては、災害時の応援協定を県内全市町で締結しており、その他にも北は宮城県から南は沖縄県の全国11市町村が加盟している、全国LNG火力発電所所在市町村連絡協議会で相互応援協定を締結しております。</p> <p>また、町民の方は、生活圏である三重郡、四日市市、桑名市などの施設を利用するなど行き来も盛んであり、ご意見のとおり、限られた町域の中で、人口規模など様々な要因から今後、単独でできない新たな事務事業が発生する可能性もあります。広域で共同実施の方が効率的な事業もあるかと思っておりますので、引き続き、様々な分野において近隣市町との連携強化が必要であると考えてお</p>	

			ります。広域連携に関しましては、第7次においても基本計画において、お示ししたいと考えております。	
7	資料①P 4 〃 P 8	P 4 2行目 ・老年人口比率が9.1%から19.0%に増加するなど… P 8 ①人口構造の変化 ■超高齢社会の進展 1行目 ・わが国は高齢化率が26.6%を超える超高齢社会に… →「高齢人口比率」と「高齢化率」を使い分けているのか？	「老年人口比率」、「高齢化率」とともに、65歳以上の人口割合を示すものです。 P 4のグラフは、人口構成を示しておりますが、一般的に、「年少人口」、「生産年齢人口」、「老年人口」の3つに区分されるため「老年人口・老年人口比率」としてあります。 P 8においては、「■超高齢社会の進展」では、「超高齢社会」と記載しているため、一般的に使われている「高齢化率」としてあります。 ○わかりやく表記するため、下記のとおり資料を修正させていただきます。 P 4 グラフ下の凡例に年齢を表記します。 「年少人口 <u>(0歳から14歳)</u> 」・「生産年齢人口 <u>(15歳から64歳)</u> 」・「老年人口 <u>(65歳以上)</u> 」 P 8 1行目を修正します。 修正前：わが国は <u>高齢化率</u> が26.6%を超える…(略) 修正後：わが国は <u>65歳以上の高齢者の比率</u> が26.6%を超える…(略)	
8	資料①P 8 資料①P 11	P 8 ①人口構造の変化 ■人口減少・生産年齢人口の減少 【まちの展望】 1行目 ・本町は当面、人口増加が続くことが予想されますが、出生率の低下、 <u>子育て世代の流出が予想される</u> ことから、… P 11 ◇「子育てしやすいまち」の魅力の強化 1行目 ・本町は、利用しやすい子育て関連施設、各種の子	昨年10月に実施しました「川越町子育て世代アンケート調査」(第2回審議会の参考資料4)では、97.5%の方が、「川越町は子育てする場所として魅力的」との回答をしています(魅力的だと思う：65.0%、どちらかといえば魅力的だと思う：32.5%、川越町民のみの集計結果)。 その理由として、「保育所、幼稚園に入所(園)しやすい」、「子育ての悩みを相談できる子育て支援センターがある」、「医療費助成などの子育てに関する支援・補助が充実している」などが挙げられています。 昨年10月から実施しました「住民意識調査」(第2回審議会の参考資料1)では、「居住歴」の設問では、「川越町に移り住んだ」が63.8%となっており、	参考資料②

	<p>育て支援策が充実し、<u>子育てしやすい町として評価されています。</u></p> <p>→P11で、「子育てしやすい町として評価されている」とある反面、P8では、「子育て世代の流出が予想される」となっている。子育てしやすい町の評価がある中で、子育て世代が流出している要因をどのように考えているか。</p>	<p>理由として、「実家や自宅がある」、「働く場所が近い」、「住宅・土地の価格、家賃が手頃」などが挙げられ、147名の方は、「結婚のため（その他項目）」と回答しています。同調査の「定住意向」に関する設問で、「いずれは移転したい・すぐにでも移転したい」と回答した145名の理由として、「交通が不便」、「町外の実家等に戻る」などが挙げられ、34名の方が、「災害への不安（その他項目）」と回答しています。</p> <p>川越町の年齢5歳階級別の純移動率（転出・転入の社会移動率）を見ますと、主に「5歳から9歳」、「35歳から39歳」の転出超過の傾向が見られます。この年代は、子どもが小学生になる前の子育て世代だと思われます。</p> <p>そして、その世代の転出先は、近隣市町が多く、参考資料②（転出者アンケート（平成29年3月実施））P8「転出した理由」として、「町外に家を建てた・購入したため」という理由が上位となっております。そういったことを勘案しますと、当町には、アパート等の共同住宅が多いことから、1つのケースとして、結婚を機に川越町に移り住み、子どもが生まれ、成長した際に、共同住宅から戸建てなどへ住み替えのために転出していることが考えられます。</p> <p>また、「住民意識調査」の結果から、居住地を選ぶ理由として、「住宅・土地等の価格」をはじめ、「通勤・通学の利便性」などがあり、また、当町から転出する理由として挙げられている、「災害への不安」という生活の安全・安心も重要な要素であり、利便性の高い地域で安全で安価な住宅供給が求められていると推測できます。</p> <p>第7次総合計画においても、「津波対策」、「水害対策」、「地震対策」など安全・安心の基礎となる施策、事業に取り組むとともに、「住みやすいまち」や「子育てしやすいまち」というイメージを伸ばし、定着させていく取り組みが必要であると考えております。</p>	
--	--	--	--

9	資料① P 4	<p>転出入の理由と割合が分かれば教えてください。</p> <p>例、転勤：20%、Uターン：10% 等</p>	<p>役場窓口での転出入手続きでは確認をしておりませんので、個別の事由はわかりません。</p> <p>平成 29 年 3 月に転出者・転入者アンケート（参考資料②・参考資料③）を実施しておりますので、その結果を参考にお示しします。</p> <p>○転出理由（参考資料② P 8）</p> <p>①結婚（離婚）のため：29.7%</p> <p>②町外に家を建てた・購入したため：23.6% ③転勤のため：14.8%</p> <p>④就職・転職のため：13.2% ～以降、省略～</p> <p>○転入理由（参考資料③ P 8）</p> <p>①結婚（離婚）のため：32.2% ②通勤・通学が便利のため：22.0%</p> <p>③転勤のため：17.3% ④生活環境がよいため：16.4%</p> <p>⑤家を建てた・購入したため：13.1% ～以降、省略～</p>	<p>参考資料②</p> <p>参考資料③</p>
10	資料① P 5	<p>産業別就業者数の業種別内訳を教えてください。</p>	<p>平成 27 年の産業大分類での就業者数 7,609 人の業種別割合は参考資料④のとおりで、製造業（2,245 人）、卸売業・小売業（1,251 人）が多くなっています。</p>	<p>参考資料④</p>
11	資料① P 5	<p>町内総生産額の業種別内訳を教えてください。</p>	<p>平成 29 年度の数値が更新されましたので、資料① P 5 ⑥のグラフも産業 3 分類のものに差し替えます。</p> <p>なお、産業 3 区分別では、平成 29 年度の町内総生産額 114,977 百万円のうち、第 1 次産業 67 百万円（0.1%）、第 2 次産業 24,937 百万円（21.7%）、第 3 次産業 90,321 百万円（78.6%）、輸入品に課される税・関税等▲348 百万円（▲0.3%）となっています。</p> <p>参考：産業大分類別では、不動産業 36,041 百万円（31.3%）、製造業 21,244 百万円（18.5%）、電気・ガス・水道・廃棄物処理業 12,745 百万円（11.1%）が多くなっています。</p>	<p>参考資料⑤</p>

12	資料①P 6 ⑧町民の意向 川越町の住みやすさ	住民意識調査の回答で、「何故そう思うのか」は聞いていますか。 聞いていたら教えてください。	「なぜ住みやすいと感じるか」の直接の設問はありませんが、「住民意識調査報告書」（第2回審議会の参考資料1）の ・ P12～ (3)住み続けたい理由 ・ P16～ 暮らしの満足度 が関連する回答かと思えます。	
13	資料①P 7 ⑧町民の意向 つづき 定住意向	定住意向で、「何故そう思うのか」は聞いていますか。 聞いていたら教えてください。	「住民意識調査報告書」（第2回審議会の参考資料1）の ・ P12～ (3)住み続けたい理由 が関連する回答かと思えます。	
14	資料①P 8・9	IoTの活用という記述はあるのですが、スマートシティ、コンパクトシティ、ZEB・ZEHなど、まちづくりに関係する記述が見当たらないのはなぜですか。	9ページの「③技術・社会の変化」の「■第四次産業革命・ソサエティ5.0」の中でスマートシティについての考えも意図して記述しています。【まちの展望】としてはまだ具体的な動きが想定できないため、記載していませんが、基本計画を検討する際に、スマートシティ、コンパクトシティ、ZEB・ZEH（ゼロ・エネルギー・ビル/ゼロ・エネルギー・ハウス）が本町でどのように実施できるかどうかも含めて検討します。	
15	資料①P 11	生活環境について、環境省の地域循環共生圏にどう取り組むのか、教えてください。	本総合計画においても資料P10にあるように、SDGsの考え方も取り入れながら計画策定をしていくことを考えております。また、環境、経済、社会がともに向上できる持続可能な社会に向け、自然環境の保全、脱炭素化（再生可能エネルギーの活用、地産地消の推進）などを基本計画の中で検討できればと考えています。	
16	資料①P 11	交通事故対策では、高齢ドライバー対策が急務であると思いますが、記述がないのは何故ですか。それに関連して、地域内交通システム、スマートモビリティの記述もありません。	昨年の三重県知事と川越町長との1対1対談の対談項目として、「高齢者の交通安全対策の推進」を挙げ、当町においては、今年度から「後付け安全運転支援装置設置補助事業」を実施しています。 高齢ドライバーの事故に限らず、交通事故が多いことから交通安全対策については引き続き強化していくことを考えており、ご意見いただきました具体的な高齢ドライバー対策、新たな交通システム等についても基本計画の部分で記述することを考えています。	

17	資料① P 11	<p>広域交通条件で、鉄道の記述がないのは何故ですか。</p>	<p>町の優れた広域交通体系の中には鉄道も含まれておりますので、下記のように修正します。</p> <p>P 11「◇優れた広域交通条件を活用した都市機能の導入促進」 1 行目</p> <p>修正前：本町は、伊勢湾岸自動車道（みえ川越インターチェンジ）、国道 1 号、国道 23 号、四日市・いなばポートライン（臨港道路霞 4 号幹線）等の優れた広域交通条件を有しており、・・・</p> <p>修正後：本町は、伊勢湾岸自動車道（みえ川越インターチェンジ）、国道 1 号、国道 23 号、四日市・いなばポートライン（臨港道路霞 4 号幹線）などの主要幹線道路をはじめ、近鉄川越富洲原駅等の優れた広域交通条件を有しており、・・・</p>	
18	資料① P 12	<p>子育てしやすいのに転出超過している矛盾を説明する記述が分かり難いのでは。</p> <p>転出対策の根拠となる資料（アンケート等）をお示しください。</p>	<p>No. 8・9 に類似する内容かと思っておりますので、No. 8・9 の回答を参照してください。</p>	
19	資料① P 16	<p>将来人口推計について、人口問題研究所の推計との差異を教えてください。</p> <p>差異の根拠と根拠の算出方法を教えてください。</p> <p>人口ピラミッドを示していただけると分かりやすい。</p>	<p>人口問題研究所の推計では 2020 年 15,501 人、2025 年 16,022 人、2030 年 16,355 人となっており、推計結果の差はほとんどありません。なお、この人口問題研究所の推計では 2015 年の国勢調査の人口をベースに推計していますが、今回の町での推計では直近のデータで推計を行うこと、住民登録している町民への公共サービスを中心に考えたいことから、住民基本台帳人口を使って、人口問題研究所の推計方法と同様のコーホート要因法により推計しています。</p> <p>また、2019 年と 2030 年で比較できる人口ピラミッドのグラフ（参考資料⑥）を追加掲載します。</p>	参考資料⑥
20	資料① P 6～7 ⑧町民の意向	<p>【質問】</p> <p>「川越町の住みやすさ」（住みやすい+どちらかといえば住みやすい）が上昇傾向となるなか、「川越町の今後の定住意向（永住したい+当分住み続けたい）」が上昇傾向となり、町にとって良い結果と</p>	<p>ご質問のとおり、「永住したい」の回答率が、調査ごとに減少しています。その一方で「当分住み続けたい」の回答率は、上昇しています。</p> <p>アンケートは、無作為抽出により対象者を決定していますので、個人、個別の意向の変化を把握することはできないため、変化している理由を明確にお答えすることができません。</p>	

		<p>なっている。しかし、定住意向で「永住したい」割合が低下している点が気がりである。その理由は何のようなことが要因として考えられるのでしょうか。</p>	<p>住むまちを選ぶときに、災害リスクが低いことや、子育てや教育、医療体制、まちの利便性など様々な要素があると思います。</p> <p>先日の活動団体ヒアリングの際に出た意見として、高齢ドライバーの交通事故増加による運転免許証の自主返納に関する意見が多くありました。免許返納により、移動手段がなくなり、閉じこもりがちになることへの不安を感じているとの意見もありました。</p> <p>日常の安全・安心はもとより、高齢になっても不自由なく生活できることも「永住したい」と思う一つの要素ではないかと考えています。</p> <p>そういったことから、ふれあいバスの運行形態の見直しを含め、新たな移動手段の検討も必要であると考えています。</p>	
21	<p>資料① P 11 (3)川越町の主要課題 ◇優れた広域交通条件を活用した都市機能の導入促進 3行目</p>	<p>【提案】 「…この優位性を活用して、<u>新たな都市機能</u>を誘導できる…」の「新たな都市機能」というのが、やや抽象的で分かりづらいと感じます。「<u>例えば、○○○など新たな都市機能</u>」と住民にもイメージを持ってもらいやすい例示を添えるなどしてみてはいかがでしょうか。</p>	<p>10年間の計画であることから、幅広く対応できるよう「新たな都市機能」としておりましたが下記のとおり修正します。</p> <p>P 11「◇優れた広域交通条件を活用した都市機能の導入促進」2行目 修正前：…優れた広域交通条件を有しており、この優位性を活用して、 新たな都市機能を誘導できる可能性を有しています。 修正後：…優れた広域交通条件を有しています。この優位性を活用した企業立地だけではなく、人口増加も見込まれることから、商業施設、医療施設などの新たな都市機能を誘導できる可能性を有しています。</p>	
22	<p>資料① P 11～13 (3)町の主要課題◇「子育てしやすいまち」の魅力強化～ ◇公共施設の計画的な更新・長寿命化</p>	<p>【参考意見】 「子育てしやすいまち」の魅力強化 (P11)～「地域力の維持・強化」(P12)においては、ソフト面とハード面両者が上手く機能することが肝要だと思料します。ハード面の記載では「◇子どもの成長とともに…」の項目の上から5行目、ファミリー向け住宅供給の促進、社会教育施設の充実があり、特に後者の「社会教育施設の充実」は後段の「地域社会づくり、担い手育成、地域力の維持・強化」を</p>	<p>町内の各公共施設は築年数経過による老朽化により、今後計画的に、建て替えを含めた、施設の修繕、改修による長寿命化などを進めていく必要性があります。公共施設全体のマネジメントの観点から、現在、公共施設管理計画を策定中ですので、その結果や住民ニーズも踏まえながら、基本計画の検討の中で協議できればと考えています。</p>	

		行う場の提供としてとても重要であると思われま すので、公共施設のマネジメントの中で積極的な検討を お願いできればと思います。		
23	資料① P 16 2. 将来人口	【意見】 前回の会議で将来人口に関する意見がいくつか 出ましたが、補足説明に加え、まちづくりの基本理 念「未来につながるまちづくり」の補足説明にもあ るとおり、未来志向を踏まえて原案通り「目標値： 16,500人」が妥当であると考えます。	No.4の回答にありますように、今後、学校教育の充実等による子育て世代の 転出の抑制、地域に対する愛着を育むことによる若い人の定住の促進、交通の 利便性を活かして未利用地や空き家の有効活用の促進などの施策を進め、目標 人口をめざしていきたいと考えています。	
24	資料① P 16 下段の表(人口 の内訳・比率)	老年人口(65歳以上人口比率)は、 2019年…19.0% 2025年…18.6% 2030年…19.5% となっている。 19.0%(2019年)から18.6%(2025年)の減少 の根拠は？	令和元年10月1日の住民基本台帳人口を用いて、コーホート要因法により 人口推計を行いました。人口比率については、各区分の人口を全体人口で除し て算出しています。65歳以上の人口は、増えていますが(2019年:2,891人→ 2025年:2,975人(84人増))、全体人口が増え、他の区分の人口も増えている ことから、65歳以上の人口割合としては、0.4%下がる結果となっています。	
25	資料① P 8 ~ P 10	今回の新型コロナウイルス対策の関係で、町と して取り組むべき新たな課題が明らかになったと いうことはないのでしょうか。もし、そうしたこと があれば、盛り込まれておいた方がよいのではな いかと思います。	新型コロナウイルス感染症に関しては、当町としましても新たな脅威と考 えております。これまでの危機管理としては、災害、防犯、交通安全の分野が中 心でありましたが、今回のコロナウイルスを含め、情報セキュリティの分野な ど新たな脅威への対応、対策が必要となってきておりますので、基本計画に盛 り込みたいと考えております。	
26	資料① P 14 下から3行目	「交通の利便性や・・・を活かして」とあります。 川越町は、広域幹線道路の結節点に位置し、鉄道も 通り、交通の利便性高いまちですが、それに加えて 名古屋大都市圏の郊外に位置する、三重県北部の 中心都市四日市市に隣接している、港湾に面して いるといった地理的特性も川越町の優位性として 捉える必要があるのではないかと思います。この	ご意見のとおり、地理的特性も川越町の優位性として考えておりますので、 下記のとおり修正します。 P 14 下から3行目 修正前：交通の利便性や地域資源などを活かして・・・ 修正後：交通の利便性や地理的優位性、地域資源などを活かして・・・	

		<p>ことは、今後の川越町のまちづくりを考えるうえでは重要な現状認識ではないかと思います。現に、移住・定住の促進などは、川越町の地理的特性を活かした施策であると思います。</p> <p>p.1の「計画策定の趣旨」の9行目には「優れた交通条件や地理的特性を有する・・・」と書かれています。未来につながるまちづくりを考える視点として、川越町を持つ地理的特性（優位性）を活かしていくという視点をもう少し強調されてはいかがでしょうか。</p>		
27	資料① P19 4行目	<p>上記と関連した意見です。「優れた交通条件と増加する人口という本町の優位性を活用して」とあります。増加している人口をもたらしているのは、川越町の地理的特性だと思いますので、「優れた交通条件と・・・という本町の地理的優位性を活かして」などとされてはどうでしょうか。</p>	<p>P14下から3行目の修正を踏まえ、下記のとおり修正します。</p> <p>P19 「②便利で活気ある暮らしができるまちづくり」4行目 修正前：優れた交通条件と増加する人口という本町の優位性を活用して・・・ 修正後：優れた交通条件や地理的特徴、増加する人口という本町の優位性を活用して・・・</p>	
28	資料① P19 下から1行目	<p>「信頼」という言葉は良いと思いますが、ここで初めて出てくるように思います。「信頼」という言葉に込める思いを、どこかで述べておかれたらどうでしょうか。</p>	<p>まちづくりの目標にも記載しておりますが、必要な事業を着実に進めることで、住民から信頼される行政運営をめざすことを目標にしています。</p> <p>また、その上の段で記載している「地域の課題を共有し、解決に向けてともに取り組んでいく協働のまちづくり」を進めるためにも、住民相互及び住民と行政の信頼関係が不可欠であることから、「協働と信頼のまちづくり」という目標を設定しました。</p> <p>P14の「まちづくりの基本理念」では、「つながる」をキーワードにしています。つながりをつくるには、「人」と「人」とが互いに信頼関係を持つことが重要だと考えております。</p> <p>ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。</p> <p>P14「人と地域とつながるまちづくり」2行目</p>	

			<p>修正前：世代を越えた住民同士の交流、地域の文化とのふれあいなどを通じて、「人」と「人」、・・・</p> <p>修正後：世代を越えた住民同士の交流、地域の文化とのふれあいなどを通じて信頼関係を構築し、「人」と「人」、・・・</p>	
29	資料① P 1 12 行目	「今後、生産年齢人口の減少」とあるが、P 16 将来人口の目標値は増加している。計画策定の趣旨と合っていない数値であるのでは？	<p>ご意見のとおり、当町において生産年齢人口は、微増していくことを見込んでおります（人口推計）。</p> <p>「(1) 計画策定の趣旨」の3段落目（全国的には人口減少や少子高齢化が進む中、…）と4段落目（しかしながら今後、生産年齢人口の減少、外国人住民の増加、…）については、当町を取り巻く環境（社会情勢など全国の傾向）を記述した部分となります。</p> <p>明確にするため、1 ページの 12 行目は下記のように修正します。</p> <p>修正前：しかしながら今後、生産年齢人口の減少、外国人住民の増加、産業の変革に向けた新たな技術の導入など、・・・</p> <p>修正後：しかしながら今後、全国的に、生産年齢人口の減少、外国人住民の増加、産業の変革に向けた新たな技術の導入が進むなど、・・・</p>	
30	資料① P 14 「未来につながるまちづくり」 1 行目	「地域資源」とあるが、何を地域資源として考えているのか？	<p>地域資源としては、自然、歴史、文化などをはじめ、住民などの人材、地域の力も地域資源と考えています。</p>	